

# 韓国語の「読む・書く」能力を高めるための 新聞の活用方法に関する研究

Research to enhance the Korean Language [Read · Write] skills using the  
Newspaper Approach

李 君在<sup>※</sup>

Kun-jae Lee<sup>※</sup>

**Abstract** : Newspaper, which is comparatively easier to obtain in the daily life of the learners. Also apart from the details which are familiar to the readers, it also contains details in fields like Economics, Politics, Culture, Linguistics are covered and so it can be used as useful teaching material to increase the communications skills and culture of the target language.

However, recently as foreign language Korean is preferred for “Speak / Listen” teaching. For teaching Korean language, how the newspaper can be used and especially to increase the read/write skills of Korean, how newspaper approach can be used effectively is an area which is almost not researched.

In this research, at first, divided the consideration of the importance of using newspaper in education in the areas of “Language Education” and “Cultural Education”. Regarding the purpose and implementation conditions of Education using Newspaper, considered the cases of Korea, Japan, America and British.

Further, for newspaper selection criteria, we have consideration 3-aspects of Learning, Education and Contents and finally we have come-up with fundamental education model which explains about using newspaper articles, advertisement and comics for providing education of Korean Language “Read, Write”.

**Key words** : Korean Language, Korean Language Education, Read, Write, Newspaper

## I. はじめに

最近、韓国語教育の現場では、ドラマや映画、K-POP、漫画、ニュース等の様々な媒体を利用した教育・学習方法が開発され、韓国語への興味や学習意欲を引き起し、コミュニケーション能力を高めようとする動きが活発である。

このような現状の中、新聞という媒体は、学習者の興味を引き出し、教科書の欠点を補い、特に「読む・書く」という言語能力を高めることができる有効な教材として注目されている。

新聞は、学習者が日常生活の中で比較的簡単に手に入れることができる。また、実際の生活に関連する身近な内容のみならず、経済や政治、文化、言語の様式等の様々な分野の情報を含んでおり、目標言語のコミュニケーション能力や文化の理解を高める有用な教材として活用することができる。

しかしながら、最近の外国語としての韓国語は、「話す・聞く」中心の教育に偏り、韓国語教育において新聞をどのように活用するか、特に韓国語の「読む・書く」能力を高めるための有効な新聞の

---

※日本経済大学経営学部経営学科

活用方法についての研究は殆ど行われていない。

従って本研究では、先ず、教育における新聞活用の意義と効果的な韓国語教育のための新聞の選定基準について考察する。その後、新聞の記事や広告、漫画等を活用した韓国語の「読む・書く」教育の具体的な方法と授業モデルを提示する。

## Ⅱ. 教育における新聞活用の意義と実施状況

新聞は、経済や政治、文化等の情報を提供し、読者を直・間接的に教育する媒体である。また、利便性と幅広い内容により、学習者の言語学習のみならず、様々な分野の教育・学習教材としても使われている。

新聞を活用した韓国語教育の方法を提示するためには、先ず、新聞活用教育（Newspaper In Education）についての理解が必要である。

従って、本章では、新聞活用教育（以下：NIE）の概念と目的、意義、各国の実施状況について検討する。

### 1. 新聞活用教育の概念

代表的な NIE 定義を見てみると、国際新聞社協会（FIEJ）では、「学校に有用な補助教材と教授方法を提供する手段であり、将来の新聞読者を育てる手段」と定義しており、韓国の朴・ミヨン（2005）は、「新聞業界と教育界の体系的な協力の下、教育現場で新聞の教育的な活用を図るプログラムである」と定義している。そして、崔・サンヒ（1998）は、「学校の授業で教授媒体として活用し、教育効果の向上のための指導方法であり、新たな新聞や教育の産学協同プログラム」と定義している。

このような様々な定義をまとめてみると、NIE とは、「新聞を有用な資料として活用し、学習者中心の活動を通じ、学習効果を高める方策」と言える。実際に NIE 学習プログラムは、言語、数学、科学、社会等の様々な分野で利用されている。

新聞を韓国語教育に活用する場合、新聞の特性上、「読む・書く」の教育活動が中心となるが、他の言語機能と連携することができる活動方法を適切に考案することで、総合的な言語教育も可能である。

### 2. 新聞活用教育の目的

教育に新聞を活用する目的及びその必要性については、各国の新聞協会によって明確に示されているが、ここでは韓国、日本、アメリカ、イギリスを取り上げ、考察する。

#### 1) 韓国

韓国で始めて NIE を実施した「中央日報」は、NIE の目的を次のように示している。

- 実用的な単語や文章能力の向上。
- 聴衆を対象とした実質的な書く機会の提供。

- 簡潔な文章、レイアウト、デザイン、写真等についての一般的な知識の拡大。
- 地域の歴史と地理、現在の社会問題と事件等についての一般的な知識の拡大。
- 社会の問題を自分の問題として考えることができる社会性の確立。
- 様々な意見や価値の存在事実の確認。
- 様々な事実と意見の中から自分自身の立場を明確にすることができる判断力と思考力の育成。
- 多くの情報の中から自分に必要なものを取捨選択し、活用できる能力の向上。

韓国のNIEの目的は、新聞を通じて知識を習得し、個人のスキルを啓発し、社会性の確立、自分の意思決定力、判断力、思考力を高めることである。

## 2) 日 本

「日本新聞協会」は、NIEの目的を次のように述べている。

- 新聞を通じて社会に関心を持ち、社会で問題になっていることを自分の問題として関連付けて考えることができる社会性を育成する。
- 社会には様々な意見が存在しているという事実と価値の多様性に気付かせ、広い人間性を育成する。
- 様々な事実と意見の中で自分自身の立場を明確にすることができる判断力と思考能力を育成する。

日本のNIEの目的は、新聞を通じて社会問題に関心を持ち、主体的に意思決定に参加して判断することができるようにし、社会性や思考力等の向上をその目的としている。

## 3) アメリカ

アメリカの「新聞出版社協会」は、NIEの目的を次のように挙げている。

- 民主主義の社会で、自分の運命を決定し、予想することができる民主市民を養成する。
- 新聞を読む能力を育て、学生の批判的な思考能力を向上させる。
- 作文、歴史、数学、時事等の様々な分野について効果的に教えるためのツールを提供する。
- 現代の生活に必要な情報や娯楽を提供することで、学生の個人的な成長を図る。
- 社会に不可欠な構成要素として、出版物への理解を助ける。

アメリカのNIEの目的は、学習者が自ら民主市民としての資質を獲得し、意思決定を行い、論理力や思考力、人格を育てるだけでなく、言語能力や批評能力を向上させ、公共の社会問題に関心を持ち、参加する動機を与えることである。

## 4) イギリス

イギリスの「新聞協会」は、NIEの目的を次のように述べている。

- 多様で、現実的で、低コストの様々な補助的な教育資料を提供する。
- 歴史的な記録と情報へのアクセスを正確にする。
- 積極的な講読を通じ、実用的な単語と文章力の向上を助ける。
- 学生の個人・社会的な教育を推進する。
- 新聞の理解を促進する。
- 新聞の製作過程についての理解を助ける。
- 学生に書く機会を提供する。

イギリスのNIEの目的は、学習者の興味誘発、学習動機付けのみならず、新聞の理解にも焦点を

当てており、刑務所や少年院等の社会の再教育を必要とする現場においても活用されているという点で、社会教育にその目的があることが分かる。

上述の目的から、韓国語教育と関連付けることができるのは、「実用的な単語と文章力の向上を助ける」、「作文の機会を提供する」、「様々な分野について効果的に教えるためのツールを提供する」の項目である。

即ち、韓国語教育における新聞活用のメリットは、韓国語を母国語とする人々が実際に使っている言葉を、また最も標準的な語法に適合した文章を、習得することができるという点である。また、新聞が扱っている内容は、文法や文章構造などを説明するために無理矢理作ったものではなく、必ずある文脈や状況を伴う実際の生活の中で起きているもので、躍動感と臨場感を与え、学習者の共感を得やすい。

### 3. 新聞活用教育の意義

新聞は、様々な分野の新しい情報や実用的な言語を得ることができる。さらに、政治、経済、社会、文化、芸術、スポーツ等の社会現象を広く扱っているため、学習者の多様なニーズに対応することができる媒体である。

新聞を教育分野に活用することは、教育的観点から幾つかの意義がある。ここでは、NIEの意義を大きく「言語教育」と「文化教育」に分けて考えてみる [表1]。

[表1 新聞活用教育の意義]

| 側面   | 新聞活用教育の意義   |
|------|---|
| 言語教育 | 学習者の興味を引き出す<br>「読む・書く」能力を高める<br>テーマ・機能別教育ができる<br>総合的な言語教育ができる |
| 文化教育 | 自然的な文化教育ができる<br>慣用的・非公式的な表現を学習することができる                        |

#### 1) 言語教育

新聞を言語教育の教材としては活用することは、学習者のレベルを考慮し、文法、発音、語彙等を過度に調整し、単純化したものではなく、目標言語圏の人々が日常的に使う言葉の集合体として実用的な言語を、標準的な語法に適合した文章を、習得することができるということを意味する。

##### ①学習者の興味を引き出すことができる

新聞は、実際にあった事件、社会で話題になっている内容、最新のリアルな情報を含んでおり、学習者の興味を引き出すことができる。

##### ②「読む・書く」能力を高める

新聞は、学習者の様々な興味や関心に応じて内容に接することができ、「読む・書く」の退屈さを回避することができる。これは、学習者の興味や意欲を高め、「読む・書く」能力を向上させる。

### ③テーマ・機能別教育ができる

新聞の内容は、信憑性が高く、専門・具体的な内容が記述され、テーマ別の学習資料として有効である。また、記事・写真・漫画・広告等の様々なテキスト・フォームと報道・説明・説得・主張等の多様な叙述方式の文章で構成されているので機能別教育にも効果的である。

### ④総合的な言語教育ができる

新聞の活用は、「話す・聞く・読む・書く」の総合的な教育が可能である。例えば、新聞を読んだ後、その内容に関連してロールプレイやグループディスカッション等を行うことにより、「話す・聞く」の言語能力を高めることができる。

特に、このような教育を学習者の言語レベルや知識、文化的背景などを考慮して行くと、効果的な言語教育になる。また、言語機能の連携だけでなく、他の媒体（TV、ラジオ、インターネット等）との連携も可能である。

## 2) 文化教育

新聞には文化が言語の形で具現化されている。学習者は、新聞を通して文化の知識を習得し、その社会についての理解を深め、最終的にコミュニケーション能力を高めることができる。

最近、韓国語教育においても文化教育の重要性が強調され、教科書に含まれる文化要素の割合が大きくなっている。しかし、文化の紹介が伝統文化や生活文化の紹介に止まっている。

### ①自然的な文化教育ができる

新聞の内容は、日常生活を始め、経済、政治、社会、宗教等、その国の文化と密接に結び付いており、学習者は新聞を通して現地の文化に自然と接し、目標言語圏の文化を理解する上での多くのヒットを得ることができる。また、新聞を読み続けることで、目標言語圏の価値観や一般的な考え方で理解することができる。

### ②慣用的・非公式的な表現を学習することができる

新聞に使われている言葉は標準語であり、現地の人々が実生活で使用している自然な言語として、その国の文化に基づくコミュニケーション方法や慣用的な表現、非公式の文脈のような複雑な構造の表現等を習得し、使用能力を高めることができる。

## 4. 各国の新聞活用教育の実施状況

NIE は、1930年代後半アメリカの「ニューヨーク・タイムズ」が新聞の利活用を促進することを目的として教育プログラムを開発し、提供したことから始まり、その後、多くの新聞社が学校の教育において新聞を活用することが有効的であることに気付き、1958年には ANPA（米国の新聞発行者協会）が全国的に NIC（Newspaper in Classroom）プログラムを支援するようになった。

1960年代には、ANPA が提供する様々な教育資料を活用した教育が北欧のデンマーク、スウェーデン、ノルウェー等で実施され、1970年代に入ってから学校のみならず、病院や企業においても NIE プログラムが使われ始めた。

1980年代には、ブラジル、アルゼンチン、オーストリア、イギリス、スペイン、日本等でも NIE プログラムが実施されるようになった。

ここでは、韓国、日本、アメリカ、イギリスを取り上げ、これらの国における NIE 実施状況について述べることにする。

#### 1) 韓 国

韓国の場合、1994年から NIE が本格的に始まり、1997年末に「中央日報」と「朝鮮日報」が NIE を取り上げて報道し、急速に普及・拡散されるようになった。

「中央日報」は、1997年に『新聞、生きている教科書』を始め、『教師研修教材』、『教師研修事例集』、『外国の NIE 資料』等の資料を発刊し、専用のホームページ ([http://IIE.JOONGAG.GO.KR./](http://IIE.JOONGAG.GO.KR/)) を開設した。「朝鮮日報」は、1996年から NIE を展開し、「嶺南日報」も相次いで NIE を展開し始めた。

韓国の NIE 展開における大きな特徴としては、外国のように新聞協会ではなく、個々の新聞社を中心として展開され、全国規模の展開には多くの困難がある。これからは、韓国も欧米のように新聞協会に小委員会を設置し、教育界や地域社会等と協力しながら、組織的・全国的な NIE 展開を考えて行かなければならない。

#### 2) 日 本

日本では、1974年に設立された「日本新聞協会」が中心となって NIE の導入・普及を推進し、1988年に小委員会が構成された。そして、1989年には日本全国で利用できる NIE モデルを開発し、1992年には初の NIE セミナーが開かれた。

日本の NIE は、「新世代の新聞読者を育成すること」と「社会の変化に自ら対応できる能力を備えた人間」を育成することを目標としている。

#### 3) アメリカ

「ニューヨーク・タイムズ」は、1932年に新聞社としては初めて学校に新聞を定期的に配布し、NIE プログラムを実施した。その後、1958年から財政・行政・技術のサポートを受け、様々な NIE プログラムを開発し、全国的に普及させた。最近では、新聞のみならず、インターネットを介しての NIE 活動を活発に展開している。

#### 4) イギリス

イギリスでは、約700以上の新聞社が NIE プログラムを実施しており、インターネット NIE も活発に展開されている。また、新聞を教育資料として利用するための教材製作を学校の教師と一緒に開発している。さらに、科目ごとに新聞を利用できるように新聞記事の作成や編集等、実際の新聞の製作のために必要な教材も発刊されている。

### Ⅲ. 効果的な韓国語教育のための新聞内容の選定基準

多くの学習者は、新聞は難しいと思っている。それは、学習者が新聞にアクセスし、内容を理解する上で、その豊富な情報や語彙が返って障害要素として作用するからである。

従って、授業で新聞を利用する際には、幾つかの注意事項を考慮する必要がある。本章では、効果的な韓国語教育のための新聞内容の選定基準について3つの側面から検討する [表2]。

[表2 新聞内容の選定基準]

| 側面  | 選定基準   |
|-----|--|
| 学習者 | 学習者の興味を引き起す<br>学習者の言語能力に適合する<br>学習者の負担にならない長さの内容 |
| 教育  | 学習目標に適合する<br>総合的な教育に適合する<br>韓国社会・文化の理解に役立つ       |
| 内容  | 時事性の強い内容<br>様々なテーマとタイプの内容                        |

## 1. 学習者

### 1) 学習者の興味を引き起す内容を選ばなければならない

学習者の興味を引き起し、有益な情報の内容を選定しなければならない。特に、学習の初期段階で学習者自ら内容を選択することにより、学習者の関心と興味を引出し、維持させることができる。その結果、多様なテーマの表現を習得することができ、今後の個人学習の出発点としても新聞は役に立つ。

### 2) 学習者の言語能力に適合した内容を選ばなければならない

学習者の言語能力を十分に考慮し、内容を選定しなければならない。新聞は、元々教育資料として作られた訳ではなく、実際・実用的な資料であるため学習目標を考慮していない表現や語彙等が多く含まれている。そのため、新聞は上級レベルの学習者向けと思われるが、文章・広告・漫画・写真等の様々なテキスト・フォームで構成されているので適切な活用方法を考案すれば、初級レベルの学習者にとっても良い教材として利用することができる。

### 3) 学習者の負担にならない長さの内容を選ばなければならない

学習者にとって新聞を活用することが難しく感じる主な理由は、新聞で使われる語彙や文法等が難しいことに起因する。そのため、学習者が負担にならない範囲内で内容を選び、授業が進むにつれてその長さを調節することが必要である。内容の長さは、学習者のレベル、内容、情報の密度、授業時間等を考慮しなければならない。

## 2. 教育

### 1) 学習目標に適合した内容を選ばなければならない

いくら重要な資料であっても学習目標に適合しない内容は意味がない。新聞をよく読んでから内容を選ばなければ学習目標に適合した資料を見つけることができない。

### 2) 総合的な教育に適合した内容を選ばなければならない

一般に、新聞を活用した言語教育といえば、「読む・書く」教育に限定される傾向があるが、なるべく「聞く・話す・読む・書く」4つの言語機能を総合的に高めることができる内容を選択しなければならない。

そのためには、TV やラジオのようなメディアを同時に利用したり、新聞の種類や内容を増やした

りして、4つの言語機能を総合的に教育することができる様々な活用方法を考案しなければならない。

### 3) 韓国社会や文化を理解するのに役立つ内容を選ばなければならない

新聞の内容は、事件・事故、社会問題、政治的批判等のように否定的なものが多く、負の要素や偏った意見のものを目にするのがよくある。そのため、韓国社会や文化に対して偏らない視点を持つ内容を選定しなければならない。

## 3. 内 容

### 1) 時事性の強い内容を選ばなければならない

新聞は、時事性や実際性が強く、学習者の興味と好奇心を呼び起こすことができる。従って、出来れば時事性の強い最近の内容を選定しなければならない。または、ある程度時間的な制約を受けない内容を選定するのも有効である。

### 2) 様々なテーマとタイプの内容を選ばなければならない

学習者が興味を持てる内容を選ぶということは、必ずしも学習者が希望するものばかりを選択するとは限らない。様々なテーマとタイプを扱い、学習者が新たな興味や関心を持てる内容を選定しなければならない。

実際の教育現場において考慮すべき選定基準は、この他にも色々考えられる。また、場合によっては選定基準から外れた内容でも教育資料として価値があると思われる部分がある場合には、編集して活用することもできる。

## IV. 韓国語教育における新聞の活用方法

最近、外国語としての韓国語教育は、「話す・聞く」中心の意志疎通教育を重視している。しかし、このような音声言語中心の教育は、文字言語教育を疎かにし、その結果「読む・書く」能力の低下をもたらしている。

以下では、新聞の記事や広告、漫画等を活用した「読む・書く」具体的な教育方法を提示する。

### 1. 「読む」教育

「読む」教育の基本目標は、内容を正確に把握することであるが、活動方法によっては言語要素の把握や文章構造の理解などの学習効果も期待できる。「読む」教育の目標に合致する適切な活動を駆使し、正確に内容を把握することができるような教育を行わなければならない。

#### 1) 「読む」教育の方法

ここでは、「pre-reading」→「reading」→「post-reading」の段階的な教育方法を提案する [表3]。



[表3 「読む」教育方法]

| 段 階          | 教 育 方 法                           |
|--------------|-----------------------------------|
| pre-reading  | タイトルを見て内容を推測する<br>キーワードを見て内容を推測する |
| reading      | ざっと読み<br>5W1H 読み<br>区切り読み         |
| post-reading | 内容を要約する<br>議論する<br>他の類似記事と比較する    |

(1) 「pre-reading」の段階

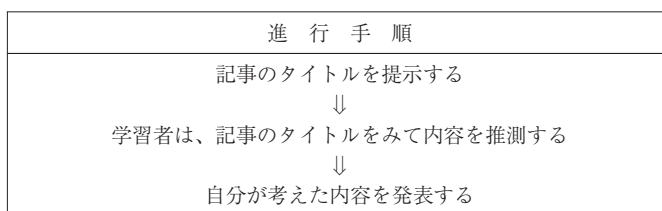
この段階は、「reading」の段階で扱う内容に関する学習者の背景知識を活性化させる段階である。

何か考えながら読むためには、先ず、学習者の学習動機が誘発され、興味を持てる新聞記事を選定しなければならない。そのため、学習者に質問し、興味のある新聞記事等を書いてもらうこともできる。このように選定された新聞記事は、学習者を動機付け、授業への積極的な参加を促す。

選定された新聞記事のテーマや要旨を授業前に学習者に知らせ、予習として図書館やインターネット等を使い、テーマについて調べさせることができる。この過程を通して、学習者は自分の意見や主張、考え等を準備することができる。

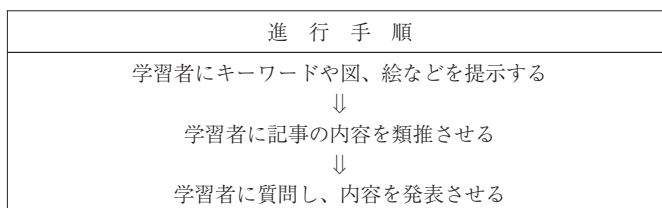
①タイトルを見て内容を推測する

学習者に記事のタイトルを提示し、今日の学習内容を推測させる。



②キーワードを見て内容を推測する

学習者にキーワードや図、絵などを提示し、記事の内容を類推させる。

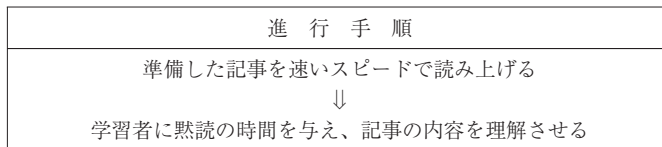


(2) 「reading」の段階

この段階は、目標とする内容を学び、それを活用する練習過程を経て、実際の「読む」課題を実行する段階である。また、「pre-reading」の段階で得た情報と知識に基づき、自分が予測した部分を確認して検証する段階である。

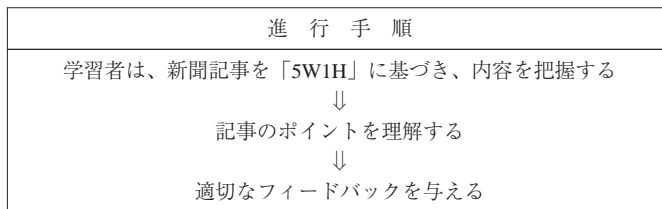
①ざっと読み

まず、準備した記事を速いスピードで読み上げる。その後、学習者に黙読の時間を与える。その際、学習者は目で読みながら記事の内容をある程度理解し、主な内容を把握する。



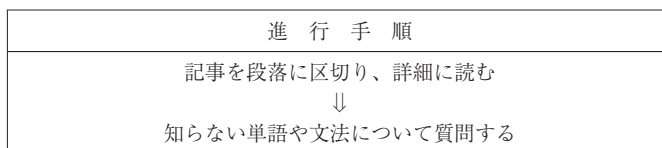
②5W1H読み

新聞記事を「5W1H」に基づき、「誰が、いつ、どこで、何を、どのように、なぜ」を把握させる。この方法は、短い時間で記事の流れを把握し、必要とする情報を見つけ、その内容を理解する能力を高めることができる。



③区切り読み

記事を段落に区切って詳細に読む。ここでは、知らない語彙や文法等を一つ一つ詳しく学習する。また、一つの文章が次の文章とどのように繋がり、その文章が全体の中でどのような意味・役割を果たしているのかを考える。

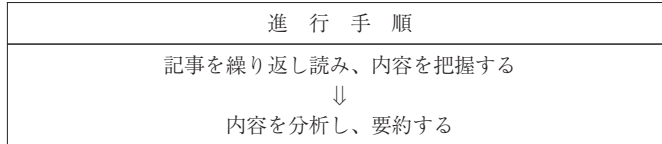


(3) 「post-reading」の段階

この段階は、「読む」活動を他の「話す・聞く・書く」機能と連携し、より総合的な学習を行う段階である。学習者の背景知識と新たに習得された知識が統合され、学習者自らが文章に含まれている情報を再構成し、内容を評価し、確認することができる。また、記事の内容を要約し、自分の意見を発表することができる。

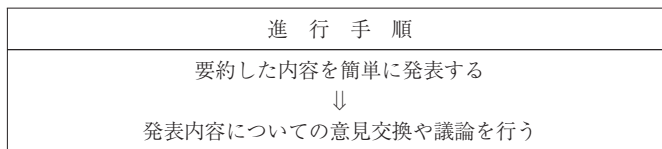
①内容を要約する

学習者に記事のポイントのみを残し、後は削除するようにする。この活動を通して、学習者は、文章を要約する能力とポイントを把握する能力を高めることができる。



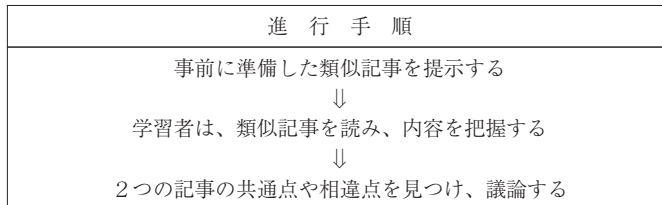
②議論する

学習者が要約した内容を簡単に発表し、その内容についての意見交換や討論を行う。



③他の類似記事と比較する

この活動では、事前に準備した類似記事を提示し、2つの記事の共通点や相違点を見つけて話し合う。



2. 「書く」教育

韓国語を学ぶ外国人の学習者にとって、「書く」は難しい領域である。「書く」教育において学習者の興味を引き起こし、能力を高めることができる方法を考えなければならない。

1) 「書く」教育の方法

「書く」は、文字を対象とする表現領域の言語機能であり、理解領域より複雑な要素を介してアウトプットされるため、語彙や文法等の複合的な能力を必要とし、これらを体系的に組み合わせた教育が必要である。

「書く」活動は、韓国語の子音・母音の書く練習を始め、スペルに合わせて単語を書く、文法に合わせて文章を書く、論理的な文章を書く、に至るまでその領域は幅広い。

ここでは、学習者に適した教材として、記事や写真、漫画を利用した具体的な「書く」教育方法を提案する [表4]。

[表4 「書く」教育の方法]

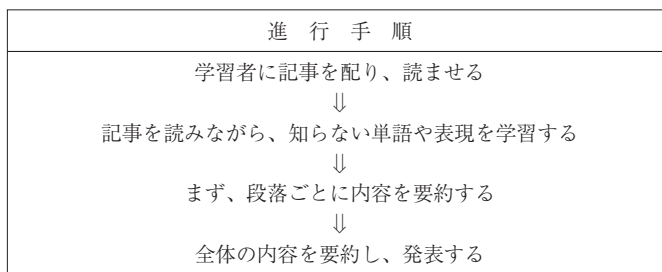
| 活 用 | 教 育 方 法   |
|-----|---|
| 記 事 | 記事を要約する<br>記事を読んで自分の意見を書く<br>見出しを見て内容を推測する<br>記事の内容に合った見出しを作成する |
| 写 真 | 写真を見て記事を作成する<br>写真を見て自分の考えを書く                                   |
| 漫 画 | セリフの穴埋め<br>吹き出しのセリフ作成<br>ラスト・シーン作成                              |

(1) 記 事

記事は、新聞の大部分を占めるものとして、政治、経済、社会、文化、国際、コラム等の多様な内容が事実に基づいて作成され、見出しと本文の形で構成されている。

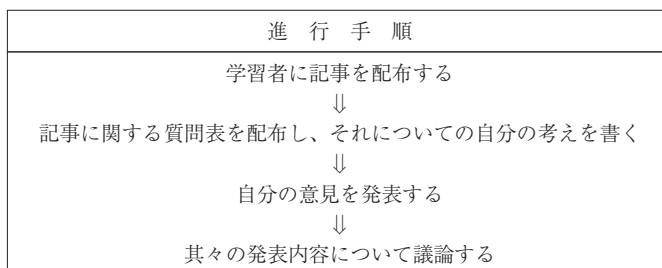
①記事を要約する

記事を要約するのは、最も一般的な活動で、提示された記事の重要な情報のみを簡潔に取りまとめ、自分の言葉で要約する活動である。



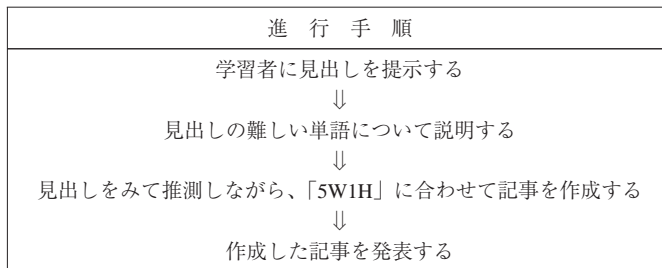
②記事を読んで自分の考えや意見を書く

政治、経済、社会、文化、環境等に関する記事を読んで、それについての自分の考えや意見を韓国語で書く。初級レベルの学習者にとっては、多少難しい活動になるが、初級レベルに合わせて単語や文法を選び、自分の意見を韓国語で書いてみることには大きな意義がある。



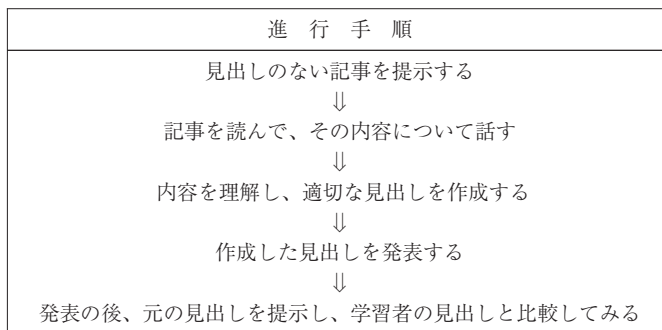
③見出しを見て内容を推測する

見出しは、記事の中心となるものである。見出しのみを見て内容を推測し、「誰が、何を、どのように、どこで、いつ、なぜ」の「5W1H」に合わせて記事を作成する。特に、自分の興味のある分野の見出しが提示されたりすると、初級の学習者も十分内容を作成することができる。また、一つの見出しが提示されたとしても、学習者ごとに異なる内容が作成されるので、多様で、興味深い「書く」授業になり得る。



④記事の内容に合った見出しを作成する

これは、上記の活動とは反対に記事の内容を提示し、それに合わせて見出しを作成する活動で、幾つかの質問を通して見出しを作成する。

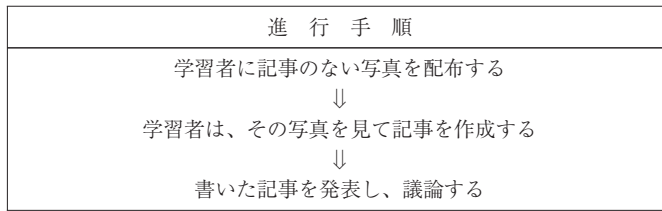


(2) 写 真

写真は、新聞の出来事や情報と関連するメッセージを含んでいるので、様々な活動を展開することができる。

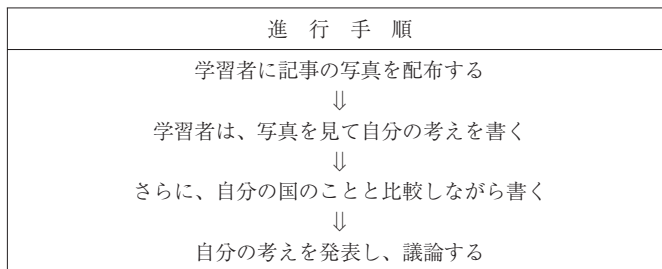
①写真を見て記事を作成する

学習者に記事が書いてない写真を配布し、その写真を基に簡単な記事を作成させる活動である。さらに、書いた記事を発表したり、議論したりすることにより、他の学習者はどのように記事を作成し、どのような考えを持っているのか確認することもできる。



②写真を見て自分の考えを書く

提示された写真を見て自分の考えを書く活動である



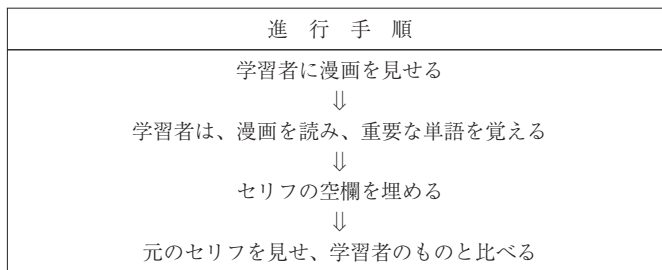
(3) 漫 画

漫画は、写真より視覚的な効果は低いですが、教育的な側面においては、学習者の興味を引きやすく、初級から上級まで様々な活動に利用できる身近な教材の一つである。しかし、テーマや内容上、教育に適していないものもあるので選別作業が必要である。

①セリフの穴埋め

セリフの穴埋めは、読解力を測定するためのツールとして開発されたものである。この活動は、内容全体を理解しなければ正確な穴埋めは難しいという意味で、総合的な活動と言える。

まず、学習者に漫画をみせる。その後、重要な単語や接続詞等を消し、その空欄を埋めさせる活動である。



②吹き出しのセリフ作成

漫画の吹き出しのセリフを削除し、学習者にその吹き出しのセリフを完成させる活動である。

| 進 行 手 順   |
|---|
| 漫画の吹き出しのセリフを削除し、学習者に配布する<br>↓<br>学習者は、吹き出しのセリフを作成する<br>↓<br>作成した吹き出しのセリフを発表する<br>↓<br>漫画の原本を見せ、学習者のものと比べる |

### ③ラスト・シーン作成

漫画の最後のシーンを削除し、学習者にラスト・シーンを作成させる。

| 進 行 手 順  |
|--|
| 漫画の最後のシーンを削除し、配布する<br>↓<br>前のシーンとの関係を考えながら、ラスト・シーンを作成する<br>↓<br>原本のラスト・シーンを見せ、学習者のものと比べる |

## V. 韓国語教育における新聞の活用モデル

前章で、新聞の記事や写真、漫画を利用した「読む・書く」教育の具体的な活動方法を幾つか提示した。本章では、新聞の記事と広告を活用した具体的な韓国語教育モデルを提案する。

### 1. 記事を活用した「読む」教育

【表5 記事を活用した「読む」教育のモデル】

| 学習対象         | 初級・中級・上級  | 学習時間 | 90分 |
|--------------|---|------|-----|
| 学習資料         | 新聞記事  |      |     |
| 学習目標         | - 記事の内容を把握することができる<br>- 内容を要約することができる<br>- 記事を正確かつ流暢に読むことができる                                       |      |     |
| 段 階          | 学 習 活 動   |      |     |
| pre-reading  | 出席を取り、学習者の注意を集める<br>↓<br>学習する記事についての学習者の興味を誘発する   |      |     |
| reading      | 学習者に準備した記事を配布する<br>↓<br>教師が一度読み上げ、その後学習者がもう一度読む<br>↓<br>語彙を教える<br>↓<br>文法を教える<br>↓<br>記事のキーワードを探し出す |      |     |
| post-reading | 記事を要約する<br>↓<br>発表する  |      |     |

## 2. 広告を活用した「書く」教育

[表6 広告を活用した「書く」教育のモデル]

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 学習対象  | 初級・中級・上級   | 学習時間 | 90分 |
| 学習資料  | 新聞広告   |      |     |
| 学習目標  | - 広告に使われる隠喩的表現や言葉を知り、理解することができる<br>- 広告文を作成することができる  |      |     |
| 段階    | 学 習 活 動  |      |     |
| 導 入   | 学習目標を読ませ、理解させる   |      |     |
| 展 開   | 学習者に広告を配布する<br>↓<br>幾つかの広告を見せ、広告の中のフレーズを確認する<br>↓<br>学習者は、自分の国の広告と比べ、その違い等について話し合う   |      |     |
|       | [広告の特徴を把握する]   |      |     |
|       | 広告に使われる言語的特徴について話す<br>(広告に使われる言語は、暗黙的であり、比喩的である)<br>↓<br>広告の内容について話す<br>(政治、経済、社会、文化、歴史等についての意見・考え)  |      |     |
|       | [広告を作成する]  |      |     |
|       | 広告を作成する<br>↓<br>自分が作成した広告を他の学習者と比較し、実際の広告を確認する<br>(この活動を通じ、韓国の文化や社会を理解し、<br>また、他の国の文化等も垣間見ることができる)<br>↓<br>広告を見て、新聞記事を作成する<br>↓<br>作成した記事を発表し、議論する |      |     |
| ま と め | 学習内容をまとめ、単語や文法、表現などを整理する   |      |     |

## VI. 結 論

本研究では、教育における新聞活用の意義について「言語教育」と「文化教育」に分けて考え、新聞活用教育の目的と実施状況については、韓国、日本、アメリカ、イギリスを取り上げ、考察してきた。そして、新聞選定基準を「学習」、「教育」、「内容」の3つの側面に分けて検討し、最後に、韓国語の「読む・書く」教育における新聞の活用方法と新聞の記事や広告を活用した具体的な韓国語教育モデルを提示した。

最近の外国語としての韓国語教育は、「話す・聞く」中心の教育を重視している。しかし、このような音声言語に重点を置く教育は、「読む・書く」の文字言語の教育を疎かにする結果を招いている。今後の韓国語教育は、単なる会話や文法中心の教育から抜け出さなければならない。

このような現状において、新聞は学習者が簡単に手に入れることができ、また、様々なレベルに応



用できるという利点と、複数の学習者のニーズを同時に満たすことができる効果的な教材である。さらに、実際の生活を反映した言語と情報を提供し、これらを通じた間接的な経験の拡大を通じてコミュニケーション能力の向上に寄与することができる。

新聞を韓国語教育に利用する場合、その特性上、「読む・書く」活動が中心になりがちであるが、他の言語機能と連携することができる活動方法を適切に設計・運営することにより、総合的な言語機能の向上を図ることができる優れた教材であることを明らかにしてきた。

最後に、本研究は、理論研究を中心とし、実際の教育現場での学習者のニーズ分析等を通じた検証を経てないという点と、本研究で提案した「読む・書く」の教育方法が実際学習者にどれだけの効果をもたらすことができるかについて実証が行われていないという限界を持っている。しかし、このような理論研究が継続的に行われ、その結果が蓄積されれば、韓国語の教育方法や教材開発等に有用な参考資料を提供することができると思われる。

#### 【参考文献】

- アン・ギョンワ (2006). 「新聞授業用の語彙目録の作成方向」, 『韓国語教育』第17巻3号, 国際韓国語教育学会, pp.143-161.
- 李 相穆 (2013). 「韓国語教育におけるマルチメディアの活用」, 『言語科学』(48), 九州大学大学院言語文化研究院言語研究会, pp.43-48.
- イ・サンリン (2011). 「韓国語教育政策に対する新聞の報道様相研究」, 『新国語教育』第89号, 韓国語教育学会, pp.529-551.
- イ・ジョンチョ (2007). 「新聞広告言語の論証の様相研究」, 『国語教育』第124号, 韓国語教育学会, pp.503-545.
- オ・ガンホ, ゴ・ヨング (2004). 「新聞の環境報道分析と新聞活用教育の可能性」, 『環境教育』第17巻第1号, 韓国環境教育学会, pp.67-76.
- キム・ギョウヒ, オム・ハンジン (2009). 「新聞活用教育 (NIE) による多文化社会教育の可能性と条件」, 『メディア, ジェンダー&文化メディア, ジェンダー&文化』第12号, 韓国女性コミュニケーション学会, pp.5-45.
- キム・セイシユク (2015). 『韓国語「書く」教育の理論と実際』, キョンジン出版.
- 金泰虎 (2006). 『韓国語教育の理論と実際』, 白帝社.
- 桂正淑 (2005). 「日本における韓国語学習・教育の問題点: 韓国語テキストの比較」, 『駿河台大学文化情報学部紀要』第12巻2号, 駿河台大学, pp.33-45.
- シン・ウンギョン (2009). 『韓国語「読む」練習』, 教育振興研究会.
- チェ・ウンギョウ (2004). 「新聞を活用した韓国語教育方法研究」, 『韓国語教育』第15巻1号, 国際韓国語教育学会, pp.209-231.
- チョン・ムンソン (2006). 「教授・学習方法としての新聞活用教育 (NIE) の有用性」, 『教育研究』第26巻第6号, 韓国教育生産性研究所, pp.19-22.
- チョン・ヨンジュ (2015). 『新聞活用教育と論述: 理論と実際』, テイル社.
- 野間秀樹 (2007). 『韓国語教育論講座』, くろしお出版.
- ハン・ジェヨン (2013). 『韓国語教育研究の現況』, 新旧文化社.
- ワン・スンザ (2008). 「新聞活討論学習研究」, 『語文学教育』36巻, 釜山教育学会, pp.237-265.